



ゲートウェイ テンプレート

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースでの既存の Cisco ゲートウェイとポートを追加および更新する方法について説明します。

- [Cisco ゲートウェイの追加 \(1 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 \(10 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定項目 \(27 ページ\)](#)
- [ポートの構成時の設定 \(73 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

Cisco ゲートウェイの追加

BAT を使用して、Cisco ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して追加することができます。

関連トピック

- [BAT を使用した Cisco VG200 ゲートウェイの追加 \(1 ページ\)](#)
- [BAT を使用した Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイおよびポートの追加 \(2 ページ\)](#)
- [BAT を使用した Cisco VG224 ゲートウェイの追加 \(3 ページ\)](#)
- [BAT を使用した Cisco VG202 および Cisco VG204 ゲートウェイの追加 \(4 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco VG200 ゲートウェイの追加

BAT を使用して Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する際に、以下のタイプのトランクやポートを設定できます。

- アナログ デバイスの Foreign Exchange Station (FXS) ポート

- ループスタート トランクまたはグラウンドスタート トランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- ISDN サービス用の T1 一次群速度インターフェイス (PRI) トランク (北米)。現在 Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用可能です。
- ISDN サービス用の T1 一次群速度インターフェイス (PRI) トランク (欧州)。現在 Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用可能です。
- デジタル アクセス T1 ポート トランク

始める前に

VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(12 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 (FXS) を追加できます。アナログデバイス用に Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログインターフェイスモジュールに FXS ポートを追加することもできます。これらのポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、ゲートウェイ電話番号テンプレートを設定し、これらの FXS ポートおよび Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートと関連付ける必要があります。

始める前に

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュールの FXS ポートを追加するには、その前に以下のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールしておく必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用してゲートウェイを設定します。設定手順については、ゲートウェイに付属のドキュメントを参照してください。
2. Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加します。Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択し、[新規追加 (Add New)] を選択します。[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] とデバイス プロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

手順

- ステップ 1 Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートを作成します。[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成 \(17 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2 一連の FXS ポートに対して共通の値を定義するには、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成します。[FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(44 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3 追加する FXS ポートに対して個別の値を設定するには、CSV データ ファイルを作成します。[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用の CSV データ ファイルの作成](#) を参照してください。
- ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#) を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco VG224 ゲートウェイの追加

BAT を使用して Cisco VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する際に、以下のタイプのトランクやポートを設定できます。

- アナログ デバイスの Foreign Exchange Station (FXS) ポート

始める前に

VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(18 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco VG202 および Cisco VG204 ゲートウェイの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

VG202 または VG204 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、シスコ ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

Cisco VG310 Gateway テンプレートの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG310 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG310 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG310 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成 \(23 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

Cisco VG320 Gateway テンプレートの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG320 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG320 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG320 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成 \(23 ページ\)](#)」を参照してください。

- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSVデータファイルを作成します。「[Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

Cisco VG350 Gateway テンプレートの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG350 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG350 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG350 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成 \(24 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSVデータファイルを作成します。「[Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

BAT を使用した Cisco VG410 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG410 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に



重要 リリース 15 以降でサポートされます。

Cisco VG410 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG410 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成 \(25 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。

BAT を使用した Cisco VG420 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG420 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に



重要 リリース 12.5(1)SU4 および 14SU1 以降でサポートされます。

Cisco VG420 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG420 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成 \(25 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

- ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

BAT を使用した Cisco VG450 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG450 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG450 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG450 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成 \(26 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

BAT を使用した Cisco ISR 4461 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco ISR 4461 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco ISR 4461 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco ISR 4461 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成 \(27 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入](#)」を参照してください。
-

ゲートウェイ テンプレートの検索

複数のゲートウェイ テンプレートが存在することがあるため、Cisco Unified Communications Manager では特定の基準に基づいて特定のテンプレートを検索できます。次の手順を使用して、テンプレートを検索します。



- (注) ブラウザセッションで作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上の Cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動した後でこのメニュー項目に戻った場合や、ブラウザを閉じた後で新しいブラウザウィンドウを開き直した場合は、手動で検索を変更するまで、Cisco Unified Communications Manager の検索設定が保持されます。
-

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイ テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [ゲートウェイの検索 (Find gateways where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。
- 名前
 - 説明
 - DN/ルート パターン
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]

- ルート グループ名
- [デバイスタイプ (Device Type)]

ステップ 3 2番目の[ゲートウェイの検索 (Find Gateways where)]ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを何も入力せずに、[検索 (Find)]をクリックします。

ステップ 5 3番目のドロップダウンリストから[表示 (Show)]を選択し、ゲートウェイに関連付けられたエンドポイントを表示して、[検索 (Find)]をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- ステータス (Status)
- IP アドレス

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (78 ページ)

ゲートウェイ テンプレートの追加または編集

BAT を使用すると、Cisco Unified Communications Manager のデータベースで VG200、VG202、VG204、VG224、VG310、VG320、VG350、VG410、VG420、VG450、Cisco Catalyst 6000 (FXS) または Cisco ISR 4461 のゲートウェイテンプレートの追加または編集を行えます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイ テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

a) 既存のゲートウェイ テンプレートを編集するには、[ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#) を参照してください。編集するゲートウェイを選択します。

ゲートウェイのフィールドの説明を参照してください。

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(28 ページ\)](#)
- [VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(29 ページ\)](#)
- [VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(30 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(39 ページ\)](#)
- [VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(31 ページ\)](#)
- [VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(32 ページ\)](#)
- [VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(33 ページ\)](#)
- [VG410 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(34 ページ\)](#)
- [VG420 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(35 ページ\)](#)
- [VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(36 ページ\)](#)
- [ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(38 ページ\)](#)

b) 新しいゲートウェイを追加するには、[\[新規追加 \(Add New\)\]](#) をクリックします。

[\[新規ゲートウェイの追加 \(Add a New Gateway\)\]](#) ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の手順のいずれかを実行します。

- a) VG200 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(12 ページ\)](#)」を参照してください。
- b) Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成するには、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成 \(17 ページ\)](#)」を参照してください。
- c) VG224 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(18 ページ\)](#)」を参照してください。
- d) VG202 または VG204 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。
- e) Cisco VG310 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成 \(23 ページ\)](#)」を参照してください。

- f) Cisco VG320 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成 \(23 ページ\)](#)」を参照してください。
- g) Cisco VG350 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成 \(24 ページ\)](#)」を参照してください。
- h) Cisco VG410 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成 \(25 ページ\)](#)」を参照してください。
- i) Cisco VG420 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成 \(25 ページ\)](#)」を参照してください。
- j) Cisco VG450 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成 \(26 ページ\)](#)」を参照してください。
- k) Cisco ISR 4461 テンプレートを作成するには、「[Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成 \(27 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成した後、ネットワークモジュールのエンドポイント識別子を追加する必要があります。BAT テンプレートに次のエンドポイント識別子を設定します。

- Foreign Exchange Station (FXS) ポート
- Foreign Exchange Office (FXO) トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイ タイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストボックスで、[Cisco VG200] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** すべてのフィールドに値を入力します。
「[VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(28 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

挿入が完了すると、ペインに新しいフィールドが表示されます。

ステップ 6 [サブユニット (Subunit)] フィールドで、各サブユニットフィールドに適切なタイプを選択します。

- VIC-2FXS : Foreign Exchange Station (FXS) 音声インターフェイス カード
- VIC-2FXO : Foreign Exchange Office (FXO) 音声インターフェイス カード
- VWIC-1MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
- VWIC-2MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
- VWIC-1MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
- VWIC-2MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

更新が完了したことがステータスにあると、サブユニットのドロップダウンリストの右側にあるリンクとしてエンドポイント ID が表示されます。

ステップ 8 エンドポイント識別子 (1/0/0 など) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールされている VIC のタイプ用のポートを追加します。

詳細については、次の手順を参照してください。

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(14 ページ\)](#)
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(15 ページ\)](#)
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加 \(16 ページ\)](#)
- [T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加 \(16 ページ\)](#)

ステップ 9 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

次のタスク

必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートへのポートの追加

VG200 ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポートタイプは、装着されている音声インターフェイスカードのタイプによって異なります。

関連トピック

[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(14 ページ\)](#)

[VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(15 ページ\)](#)

[VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタルアクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加 \(16 ページ\)](#)

[T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加 \(16 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、POTS デバイスに接続するために使用されます。以下の手順を使用して、VG200 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加します。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(12 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウがエンドポイントのアイコンと共に表示されます。

ステップ 3 適切なゲートウェイ情報とポート情報の設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、以下を参照してください。

- [FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(44 ページ\)](#)
- [POTS ポートの設定項目 \(73 ページ\)](#)

(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの一番下に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に [新規DNの追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。

ステップ 4 [新規DNの追加 (Add a new DN)] をクリックして、電話番号を POTS ポートに追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合、[ステップ 6 \(16 ページ\)](#) に移動します。

ステップ 5 ポートを追加したゲートウェイのメイン VG200 の [ゲートウェイ テンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

ステップ 7 その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 1 \(14 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(14 ページ\)](#) を繰り返します。

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新](#)

[ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX と接続するために使用されます。BAT を使用して、VG200 ゲートウェイ テンプレート上にループ スタート用またはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加および設定できます。



- (注) Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループ スタート トランクに確実な接続解除監視がないと見なします。グラウンド スタートとして確実な接続解除監視と共にトランクを設定することにより、Cisco Unified Communications Manager サーバ フェールオーバーの間、アクティブ コールを維持できます。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(12 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

ステップ 3 [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウンリストから、[グラウンド スタート (Ground Start)] または [ループ スタート (Loop Start)] を選択します。

- (注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント識別子に対して同じポートタイプを選択する必要があります。異なるポートタイプを選択すると、メッセージが表示されません。

ステップ 4 適切なゲートウェイ設定とポート情報設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(44 ページ\)](#)」を参照してください。

- ステップ 5** ポートを追加したゲートウェイのメイン VG200 のゲートウェイ テンプレートの設定ウィンドウに戻るには、[\[関連リンク \(Related Links\)\]](#) ドロップダウンリストで [\[MGCP 設定に戻る \(Back to MGCP Configuration\)\]](#) を選択し、[\[移動 \(Go\)\]](#) をクリックします。
- ステップ 6** [\[リセット \(Reset\)\]](#) をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。
- ステップ 7** さらに FXO ポートを追加するには、[ステップ 2 \(15 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(15 ページ\)](#) を繰り返します。

関連トピック

[ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加

BAT を使用して、デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを VG200 ゲートウェイ テンプレートに追加できます。

手順

- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [\[ゲートウェイの設定 \(Gateway Configuration\)\]](#) ウィンドウから、設定するデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- 表示される [\[デバイスプロトコル \(Device Protocol\)\]](#) ドロップダウン リスト ボックスで、[\[デジタルアクセスT1 \(Digital Access T1\)\]](#) を選択し、[\[次へ \(Next\)\]](#) をクリックします。
- ステップ 3** 適切なゲートウェイの構成時の設定を入力して、[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックします。
- 詳細は、[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明 \(53 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4** ゲートウェイをリセットして変更を適用するには、[\[リセット \(Reset\)\]](#) をクリックします。
- ステップ 5** 選択したポート タイプに適した設定については、[ポートの構成時の設定 \(73 ページ\)](#) を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加

BAT を使用して、T1 PRI または E1 PRI デバイスを VG200 ゲートウェイ テンプレートに追加できます。

手順

- ステップ1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。
- ステップ2 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント識別子をクリックします。
- ステップ3 T1 PRI または E1 PRI デバイスのプロトコル設定を設定します。
フィールドの説明については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(58 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ5 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

関連トピック

- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイ テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

- ステップ1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リストボックスで、[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] を選択します。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ4 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
- ステップ5 フィールドに設定値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(39 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ6 [新規ポートを追加 (Add a New Port)] をクリックします。

ポート設定ダイアログが別のウィンドウで開きます。

- ステップ 7** ドロップダウンリストで、設定しているゲートウェイモデルに基づくポートタイプとして **[POTS]** を選択します。
- フィールドの説明については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(58 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 8** 適切なポート設定を入力して、**[保存 (Save)]** をクリックします。
- フィールドの説明については、「[POTS ポートの設定項目 \(73 ページ\)](#)」を参照してください。
- POTS ポートを挿入した場合は、ウィンドウが更新表示され、左側のリストに POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に **[DNの追加 (Add DN)]** リンクが表示されます。
- ステップ 9** 電話番号を FXS ポートに追加するには、**[DNの追加 (Add DN)]** をクリックします。
- ステップ 10** **[保存 (Save)]** をクリックします。
- ステータスに更新の完了が示されている場合は、テンプレートが **[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)]** ウィンドウに表示されます。**[検索/一覧表示 (Find and List)]** ウィンドウに戻るには、ウィンドウ右上にある **[関連リンク (Related Links)]** ドロップダウンリストボックスで **[検索/一覧表示に戻る (Back to Find and List)]** を選択します。

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新
ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成

CiscoVG224 テンプレートを作成した後、ネットワークモジュールのエンドポイント識別子を追加する必要があります。BAT テンプレートに次のエンドポイント識別子を設定します。

- Foreign Exchange Station (FXS) ポート

手順

- ステップ 1** **[一括管理 (Bulk Administration)]** > **[ゲートウェイ (Gateways)]** > **[ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)]** の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)]** ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **[新規追加 (Add New)]** をクリックします。
- [新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)]** ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** **[ゲートウェイタイプ (Gateway Type)]** ドロップダウンリストで、**[VG224]** を選択し、**[次へ (Next)]** をクリックします。

[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(29 ページ\)](#)」を参照してください。

挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。

ステップ 6 [サブユニット 0 (Subunit 0)] フィールドで、ドロップダウンリストからサブユニットフィールドに適切なタイプを選択して、[保存 (Save)] をクリックします。

- VIC-2FXS : Foreign Exchange Station (FXS) 音声インターフェイス カード。

更新が完了したことがステータスにあると、サブユニットのドロップダウンリストの右側にあるリンクとしてエンドポイントIDが表示されます。

ステップ 7 エンドポイント識別子 (1/0/0 など) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールされている VIC のタイプ用のポートを追加します。

ステップ 8 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

次のタスク

必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

関連トピック

[FXS ポートの VG224 ゲートウェイ テンプレートへの追加 \(19 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

FXS ポートの VG224 ゲートウェイ テンプレートへの追加

BAT を使用して、VG224 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加します。Foreign Exchange Station (FXS) は、POTS デバイスに接続するために使用されます。

始める前に

ポートを設定する前に、VG224 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウがエンドポイントのアイコンと共に表示されます。

ステップ 3 適切なゲートウェイ情報とポート情報の設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、以下を参照してください。

- [FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(44 ページ\)](#)
- [POTS ポートの設定項目 \(73 ページ\)](#)

(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの一番下に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に [新規DNの追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。

ステップ 4 [新規 DN の追加 (Add a new DN)] をクリックして、電話番号を POTS ポートに追加します。または、別のタイプのポートを設定する場合、[ステップ 6](#) に移動します。

ステップ 5 ポートを追加したゲートウェイのメイン VG224 の [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [MGCPに戻る (Back to MGCP)] 設定を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

ステップ 7 その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 1](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新](#)

[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(18 ページ\)](#)

[ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG202 または VG204 テンプレートを作成した後、ネットワークモジュールのエンドポイント識別子を追加する必要があります。BAT テンプレートに次のエンドポイント識別子を設定します。

- Foreign Exchange Station (FXS) ポート

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストボックスで、[Cisco VG202] または [Cisco VG204] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。
挿入が完了すると、新しい [サブユニット 0 (Subunit 0)] フィールドがペインに表示されます。
- ステップ 6** [サブユニット 0 (Subunit 0)] フィールドで、ドロップダウンリストボックスからサブユニットフィールドに適切なタイプを選択して、[保存 (Save)] をクリックします。
ステータスに更新の完了が示されている場合は、エンドポイント識別子がサブユニットドロップダウンリストボックスの右側にリンクとして表示されます。
- ステップ 7** 1つのエンドポイント識別子 (たとえば 0/0) をクリックしてデバイスプロトコル情報を設定し、インストールされている VIC のタイプ用のポートを追加します。
- ステップ 8** [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

次のタスク

必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

関連トピック

- [VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(22 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

BAT を使用して、VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加します。Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、POTS デバイスに接続するために使用されます。

始める前に

ポートを設定する前に、VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(20 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
ウィンドウがリフレッシュされ、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウがエンドポイントのアイコンと共に表示されます。

ステップ 3 適切なゲートウェイ情報とポート情報の設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、以下を参照してください。

- [FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(44 ページ\)](#)
- [POTS ポートの設定項目 \(73 ページ\)](#)

(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの一番下に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に [新規DNの追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。

ステップ 4 [新規DNの追加 (Add a new DN)] をクリックして、電話番号を POTS ポートに追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合、[ステップ 6 \(22 ページ\)](#) に移動します。

ステップ 5 ポートを追加したゲートウェイの VG202 または VG204 の [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メインウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします (MGCP ゲートウェイを設定している場合)。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

ステップ 7 その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2 \(22 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(22 ページ\)](#) を繰り返します。

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新
ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (78 ページ)

Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG310 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG310] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにこのテンプレートの一意の名前を入力します。

ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明](#) (31 ページ)」を参照してください。

Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG320 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- [新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG320] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
- ステップ 6** すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- フィールドの説明については、「[VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(32 ページ\)](#)」を参照してください。
-

Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成

BATを使用して、VG350 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- [新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG350] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。

ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(33 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG410 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG410] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。

ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG410 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(34 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG420 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
 - ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG420] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
 - ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG420 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(35 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、VG450 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG450] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
 - ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(36 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[Cisco ISR 4461] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
- ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(38 ページ\)](#)」を参照してください。

ゲートウェイの設定項目

BAT を使用して追加または更新できる、シスコでサポートするゲートウェイおよびポートすべてについて、以下に詳細なフィールドの説明を記載します。

関連トピック

[Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(39 ページ\)](#)

[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタルアクセス T1 トランクのフィールドの説明 \(53 ページ\)](#)

[FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(44 ページ\)](#)

[ポートの構成時の設定 \(73 ページ\)](#)

[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(58 ページ\)](#)

[VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(28 ページ\)](#)

[VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(30 ページ\)](#)

[VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(29 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、VG200 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 1: VG200 ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	リストから Unified Communications Manager 冗長性グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長性グループには、最大 3 つの Unified Communications Managers の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
(注)	一部の VIC に対して開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、サブユニット 0 の VIC が 0 で始まり、2 つのポート (0 と 1) が存在する場合、サブユニット 1 の VIC は 1 より大きいポート番号で開始する必要があります (2 と 3 または 4 と 5)。
(注)	VG200 ゲートウェイにはスロットが 1 つだけあります。

フィールド	説明
スロット 1 内のモジュール (Module in Slot 1)	<p>VG200 ゲートウェイで使用できるスロットについて、以下のタイプのモジュールから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V] : Network Module-1Voice には、FXS または FXO 用のサブユニット 0 の 1 つの音声インターフェイスカード (VIC) が存在します。 • [NM-2V] : Network Module-2Voice には、2 つの VIC が存在します。FXS または FXO のいずれかに対して、1 つはサブユニット 0 にあり、もう 1 つはサブユニット 1 にあります。 • [NM-HDV] : Network Module-High Density Voice には、T1 CAS または T1 PRI 用、あるいは E1 PRI 用のサブユニット 0 の 1 つの VIC が存在します。 • [なし (None)] : ネットワーク モジュールはインストールされません。
[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	<p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、VG224 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 2: VG224 ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 2 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG224 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [アナログ (Analog)] を選択します。
Subunit 0	VG224 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 について、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットとして [24FXS] を選択できます。 (注) VG224 ゲートウェイでは、スロット 2 のモジュールとサブユニット 0 しか使用できません。

VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 3: VG202 および VG204 ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイテンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG202 または VG204 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [アナログ (Analog)] を選択します。
Subunit 0	VG202 または VG204 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 について、ドロップダウンリストボックスからサブユニットとして [2FXS] を選択できます。 (注) VG202 または VG204 ゲートウェイでは、スロット 0 のモジュールとサブユニット 0 しか使用できません。

VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG310 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 4: VG310 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG310 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG310 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [VG-2VWIC-MBRD] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG320 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 5: VG320 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG320 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG320 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [VG-3VWIC-MBRD] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG350 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 6: VG350 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG350 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG350 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [NM-4VWIC-MBRD] を選択します。
[スロット 1/3 内のモジュール (Module in Slot 1/3)]	VG350 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [なし (NONE)] を選択します。
[スロット 2/4 内のモジュール (Module in Slot 2/4)]	VG350 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [アナログ (ANALOG)] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「？」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG410 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG410 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 7: VG410 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG410 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
Unified Communications Manager グループ	ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG410 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [VG-1NIM-MBRD] を選択します。
Subunit 1	選択したプロトコルに基づいて、VG10 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 1 について、ドロップダウンリストからサブユニットを選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「[?]」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログ ボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG420 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG420 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 8: VG420 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG420 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
Unified Communications Manager グループ	ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG420 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [ISR-2NIM-MBRD] を選択します。
スロット 1 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG420 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリスト ボックスから [アナログ (ANALOG)] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある 「[?]」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG450 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 9: VG450 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG450 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
Unified Communications Manager グループ	ドロップダウン リスト ボックスから、Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG450 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [ISR-3NIM-MBRD] を選択します。
[スロット 1/2/3 内のモジュール (Module in Slot 1/2/3)]	VG450 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [アナログ (ANALOG)] を選択します。 [ANALOG] : ゲートウェイの SM-X スロットで、ユーザは、SM-X-16FXS/FXO、SM-X-24FXS/4FXO、SM-X-8FXS/12FXO、SM-X-56FXS または SM-X-72FXS のモジュールを選択できます。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログ ボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco ISR 4461 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 10: ISR 4461 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	ISR 4461 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	ISR 4461 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [ISR-3NIM-MBRD] を選択します。
[スロット 1/2/3 内のモジュール (Module in Slot 1/2/3)]	ISR 4461 ゲートウェイで使用できるスロットについて、以下のタイプのモジュールから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ANALOG] : ゲートウェイの SM-X スロットで、ユーザは、SM-X-16FXS/FXO、SM-X-24FXS/4FXO、SM-X-8FXS/12FXO、SM-X-56FXS または SM-X-72FXS のモジュールを選択できます。 • [SM-X-NIM-ADPTR] : ゲートウェイの SM-X スロット内の NIM 用アダプタ。
製品固有の設定	

フィールド	説明
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	<p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表は、Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイテンプレートの構成時の設定の一覧です。

表 11 : Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
Description	デバイスの目的を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウンリストボックスから適切なデバイスプールを選択します。</p> <p>デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。</p>
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	<p>このゲートウェイに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられている属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。</p> <p>共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。</p>

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義された優先順位に従って、利用可能なメディアリソースから必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	この IP ゲートウェイのグループに使用するネットワーク保留音の音源を選択します。 ネットワーク保留音源は、システムによりコールが保留されるとき (ユーザがコールを転送またはパークするときなど) に再生される音楽の音源を指定します。
コーリング サーチ スペース	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションのコレクションを指定します。</p> <p>このドロップダウンリストボックスに表示されるコーリングサーチスペースの数を設定するには、[リストボックス項目の最大数 (Max List Box Items)] エンタープライズパラメータを使用します。[リストボックス項目の最大数 (Maximum List Box Items)] エンタープライズパラメータで指定されている数より多くのコーリングサーチスペースがある場合は、ドロップダウンリストボックスの横に省略ボタン (...) が表示されます。[...] ボタンをクリックすると、[コーリングサーチスペースの選択 (Select Calling Search Space)] ウィンドウが表示されます。[次の名前が含まれる項目を一覧表示 (List items where Name contains)] フィールドに、コーリングサーチスペースの名前の一部を入力します。[使用する項目の選択 (Select item to use)] ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、目的のコーリングサーチスペース名をクリックし、[OK] をクリックします。</p> <p>(注) リストボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[Unified CMAAdmin パラメータ (Unified CMAAdmin Parameters)] を選択します。</p>

フィールド	説明
[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[所在地 (Location)]	<p>このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションに対して送受信可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを[なし (None)]に設定すると、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AARグループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AAR グループ設定を[なし (None)]にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストから、ゲートウェイに関連付けるロケールを選択します。ネットワークロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワークロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンとリズムの定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワークロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワークロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワークロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。</p>

フィールド	説明
[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager でこのメディア エンドポイントと共にトラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)]: このデバイスでの TRP の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)]: このデバイスで TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>トラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスはトラステッドリレー ポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVP Agent) 、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>ポートを選択する順序を選択します。使用するポートの順序がわからない場合は、[トップダウン方式 (TOP_DOWN)] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [トップダウン方式 (TOP_DOWN)]: ポート 1 からポート 8 まで、ポートを降順に選択します。 • [ボトムアップ方式 (BOTTOM_UP)]: ポート 8 からポート 1 まで、ポートを昇順に選択します。
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適したファームウェアのロード情報を入力します。</p> <p>ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判断します。</p> <p>送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端電話機のユーザ ロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側のデバイスは、送信側のデバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端電話機のユーザ ロケールに一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で同じ言語グループに属していないユーザ ロケールが設定されると、電話機の表示が文字化けする可能性があります。</p>
[発信側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>発呼側トランスフォーメーション パターンを発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションに割り当てると、デバイスはそのトランスフォーメーション パターンの属性を継承します。</p>
[デバイスプールの発信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定されている発信側トランスフォーメーション CSS を使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスは [デバイス設定 (device configuration)] ウィンドウで設定した発信側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p>
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスと関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにした場合、このデバイスは自身のデバイス プールに設定された値から、その MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合は、このデバイスの MLPP ドメインは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータの設定値から継承されます。</p>

フィールド	説明
[MLPP 通知 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプにはこの設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	この設定にはこのデバイス タイプはありません。
位置情報の設定	
地理的な場所	ドロップダウン リスト ボックスから位置情報を選択します。 [未指定 (Unspecified)]という位置情報を選択することもできます。この場合、デバイスに位置情報は関連付けられません。 また、[システム (System)]>[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	ドロップダウン リスト ボックスから位置情報フィルタを選択します。 [なし (None)]の設定のままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。 また、[システム (System)]>[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。

FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明

次の表に、FXS/FXO ポートの設定項目に関する詳細な説明を示します。

VG200 ゲートウェイの場合、一部のスイッチ エミュレーション タイプでネットワーク側がサポートされていません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定方法により、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 12: FXS/FXO ポートの設定項目

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	VG200 ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager により生成される、VG200 アナログインターフェイスを識別する文字列が表示されます。

フィールド	説明
説明	<p>Cisco Unified Communications Manager は、アナログ MGCP 記述を一意に識別する文字列を生成します。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは編集できます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウンリストボックスから適切なデバイスプールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。</p>
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合にのみ設定します。パケット キャプチャを設定すると、コール処理が中断することがあります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合にのみ設定します。パケット キャプチャを設定すると、コール処理が中断することがあります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定する際に検索される一連のルート パーティションで構成されます。</p>

フィールド	説明
[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>一元化されたコール処理システムでコールアドミッション制御 (CAC) を実装するには、ロケーションを使用します。CAC により、ロケーション間のリンク上でオーディオおよびビデオ通話に使用できる帯域幅の量を制限することで、オーディオの品質およびビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションを [Hub_None] に設定すると、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。ロケーションを [ファントム (Phantom)] に設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP プロトコルを使用するクラスタ間トランクの間で、正常な CAC を有効にするロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用します。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストから、ゲートウェイに関連付けるロケールを選択します。ネットワークロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワークロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンとリズムの定義が含まれます。</p> <p>(注) 既にインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワークロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワークロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワークロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。</p>

フィールド	説明
[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager でこのメディア エンドポイントと共にトラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)]: このデバイスでの TRP の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)]: このデバイスで TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>トラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスはトラステッドリレー ポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVP Agent) 、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と RSVP Agent の両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP としても使用可能な RSVP Agent を検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に、TRP としても指定可能なトランスコーダを検索します。</p>

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定を使用して、Unicodeを送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判断します。</p> <p>送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定が終端電話のユーザロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側のデバイスは、送信側のデバイスのデバイスプールのユーザロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザロケール設定が終端電話機のユーザロケールに一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で同じ言語グループに属していないユーザロケールが設定されると、電話機の表示が文字化けする可能性があります。</p>
[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定は、(FXO ポートではなく) FXS ポートについて表示されます。この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発呼側変換 CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールを発信する前に、デバイスは番号分析を使用して変換を適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]を[なし (None)]に設定した場合、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。ルーティングに使用されない Null 以外のパーティションで、必ず [発信側変換パターン (Calling Party Transformation Pattern)]を設定してください。</p>
[デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発信側トランスフォーメーションCSSを使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスは[ゲートウェイ設定 (Gateway Configuration)]ウィンドウで設定した[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]を使用します。</p> <p>FXO ポートではなく FXS ポートの設定が表示されます。</p>

フィールド	説明
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットラインデバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットラインデバイスは他のホットライン デバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的に1つの電話番号にダイヤルするよう電話を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーを含まないソフトキー テンプレートを作成し、それをホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>
[マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスと関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし> (<None>)] のままにした場合、このデバイスは自身のデバイス プールに設定された値から、その MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] の設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは [MLPP ドメイン ID (MLPP Domain Identifier)] エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。</p>
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>この設定は一部のデバイスでは利用できないことに注意してください。利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールを発信するときその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てる設定値として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは MLPP 通知設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : このデバイスでは MLPP 優先コールの表示は処理されません。 • [オン (On)] : このデバイスでは MLPP 優先コールの表示を処理します。 <p>(注) デバイスを設定する際は、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定し、かつ [MLPP通知 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定することは避けてください。</p>

フィールド	説明
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は一部のデバイスでは利用できないことに注意してください。利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールを発信するときにプリエンプション機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てられる設定値として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスはMLPPプリエンプション設定をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disabled)]: このデバイスは、優先順位の高いコールを完了する必要がある場合に、優先順位の低いコールのプリエンプションを許可しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは、優先順位の高いコールを完了する必要がある場合に、優先順位の低いコールのプリエンプションを許可します。 <p>(注) デバイスを設定する際は、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]を [強制 (Forceful)]に設定し、かつ [MLPP通知 (MLPP Indication)]を [オフ (Off)]または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)]の場合) に設定することは避けてください。</p>
[ポート情報 (Port Information)] (POTS)	
[ポートディレクション (Port Direction)]	<p>このポートを通過するコールの方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信 (Inbound)]: 着信コールのみに使用します。 • [発信 (Outbound)]: 発信コールに使用します。 • [両方 (Both Ways)]: 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[プレフィックスDN (Prefix DN)] (FXS ポート)	<p>このトランクがインバウンド コールで受信する数字に付加するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、最初に [桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際番号用のエスケープ文字 + も入力することができます。</p>

フィールド	説明
[桁数 (Num Digits)] (FXS ポート)	<p>収集する有意な桁の数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコール先番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用します。また、PRI スパンに着信するコールをルーティングするための、送信先番号の最後の数字から数えた桁数を指定します。[プレフィックスDN (Prefix DN)]を参照してください。</p>
[必要な桁数 (Expected Digits)] (FXS ポート)	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドが使用されることはほとんどありませんが、必要な桁数がわからない場合は、デフォルト値の 0 のままにします。</p>
[SMDIポート番号 (0-4096) (SMDI Port Number (0-4096))]	<p>このフィールドは、ボイスメッセージングシステムに接続するアナログ アクセス ポートに使用します。</p> <p>SMDI ポート番号を、アナログ アクセス ポートが接続するボイスメッセージングシステム上の実際のポート番号と等しい番号に設定します。</p> <p>(注) 通常、ボイス メッセージング システムが正常に動作するためには、ボイスメール論理ポートが、ボイス メッセージング システムの物理ポートに一致する必要があります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[地理的な場所 (Geo Location)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する、[位置情報を指定しない (Unspecified geo location)]を選択することもできます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>

フィールド	説明
位置情報フィルタ (Geo Location Filter)	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p><None> 設定をそのままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>また、[システム (System)] [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>(注) このフィールドは、FXS ゲートウェイではサポートされていません。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product-Specific Configuration)]	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	<p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG200 ゲートウェイで T1 CAS トランクの値を追加または更新するためのフィールドに関する詳細な説明を示します。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドの入力は任意です。

表 13: デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の構成時の設定

フィールド	説明
エンドポイント名 (End-Point Name)	<p>VG200 ゲートウェイの場合、この読み取り専用フィールドには、VG200 デジタル インターフェイスを一意に識別する Cisco Unified Communications Manager によって生成される文字列が含まれます。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1、DS1-0 はデジタル インターフェイス、@VG200-2 は VG200 のテンプレート名を指定します。</p>
説明	<p>デバイスの目的を特定する説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータによって、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク外部のもの (OffNet) か、ネットワーク内部のもの (OnNet) かが決定します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] として設定される場合、クラスタ全体に対する Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータ [コールの分類 (Call Classification)] の設定によって、ゲートウェイが OnNet であるか OffNet であるかが決定します。</p> <p>このフィールドにより、コールがオンネットの場合はオンネットアラート トーン、コールがオフネットの場合はオフネットアラート トーンが提供されます。</p>
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>このリストには、メディア リソース グループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディア リソース リスト (Media Resource List)] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。</p>

フィールド	説明
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された（発信側）番号のルーティング方法を決定するために検索されるルート パーティションのコレクションを指定します。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数を設定するには、[リストボックス項目の最大数 (Max List Box Items)] エンタープライズ パラメータを使用します。[リスト ボックス項目の最大数 (Maximum List Box Items)] エンタープライズ パラメータで指定されている数より多くのコーリングサーチスペースがある場合は、ドロップダウン リストボックスの横に省略ボタン (...) が表示されます。[...] ボタンをクリックすると、[コーリングサーチスペースの選択 (Select Calling Search Space)] ウィンドウが表示されます。[次の名前が含まれる項目を一覧表示 (List items where Name contains)] フィールドに、コーリング サーチ スペースの名前の一部を入力します。[使用する項目の選択 (Select item to use)] ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、目的のコーリング サーチ スペース名をクリックし、[OK] をクリックします。</p> <p>(注) リストボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[Unified CMAAdmin パラメータ (Unified CMAAdmin Parameters)] を選択します。</p>
[AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された（発信側）番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>
[所在地 (Location)]	<p>このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを[なし (None)] に設定すると、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。</p>

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AARグループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AARグループ設定を[なし (None)]にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[MLPPドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウンリストボックスから、このデバイスと関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにした場合、このデバイスは自身のデバイス プールに設定された値から、そのMLPPドメインを継承します。デバイスプールにMLPPドメインの設定がない場合は、このデバイスの MLPP ドメインは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。
[DTMF 優先シグナルの処理 (Handle DTMF Precedence Signals)]	このゲートウェイが特殊な DTMF シグナルを MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このボックスをオンにします。
ロード情報	ゲートウェイに適したファームウェアのロード情報を入力します。 ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	最初 (最も小さい番号のポート) から最後 (最も大きい番号のポート) 、または最後から最初の順番で、発信コールに割り当てられるチャネルまたはポートの順番を選択します。 有効な入力値には [TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (下から上) があります。使用するポートの順序がわからない場合は、[TOP_DOWN] を選択します。
送信番号 (Digit Sending)	発信ダイヤルの送信番号タイプとして次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [DTMF] : Dual Tone Multifrequency (デュアル トーン 多重周波数) 。通常のプッシュボタン信号ダイヤル • [MF] : 多重周波数 • [PULSE] : パルス (回転) ダイヤル

フィールド	説明
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストから、ゲートウェイに関連付けるロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンとリズムの定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワーク ロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワーク ロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。</p>
[SMDI基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータを0以外の値に設定したときに、このゲートウェイがルートリストまたはルートグループの不明なタイプに属している場合、ハントがこのスパンを超えて続行されることはありません。</p>
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[地理的な場所 (Geo Location)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する、[位置情報を指定しない (Unspecified geo location)]を選択することもできます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>
位置情報フィルタ (Geo Location Filter)	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p><None> 設定をそのままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p>
製品固有の設定	

フィールド	説明
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that the gateway manufacturer defines)]	<p>製品固有の設定下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーが指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG200 ゲートウェイで T1 PRI または E1 PRI トランクの値を追加または更新するためのフィールドに関する詳細な説明を示します。

一部のフィールドでは、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドの入力は任意です。

表 14: T1 PRI または E1 PRI のフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
Endpoint Name	<p>VG200 ゲートウェイの場合、この読み取り専用フィールドには、VG200 エンドポイントを一意に識別する Cisco Unified Communications Manager によって生成される文字列が含まれます。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1、DS1-0 はデジタル インターフェイス、@VG200-2 は VG200 のドメイン名を指定します。</p>
説明	<p>設定するエンドポイントの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>

フィールド	説明
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ゲートウェイ/ポートのこのグループのデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールでは、地域、日時グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用 コーリング サーチ スペースなど、デバイスに共通する特性のセットを定義します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、オンネット、オフネット、またはシステムデフォルトとしてデバイスを設定するオプションを選択します。</p> <p>デバイス レベルで [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] を選択した場合、デバイスが内部 (オンネット) にあるか、外部 (オフネット) にあるかを判別するために、システムによってサービスパラメータの値が使用されます。</p>
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、Cisco ゲートウェイおよび電話機が特定の地理的地域で PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する一連のトーンとリズムで構成されます。</p>
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>ゲートウェイ/ポートのこのグループのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは使用可能なメディア リソースの中から MRGL で定義されている優先順序に従って、必要なメディア リソースを選択します。</p>
[所在地 (Location)]	<p>ゲートウェイ/ポートのこのグループのロケーションを選択します。</p> <p>このロケーションは、制限付き帯域幅接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを示します。</p>

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AARグループ設定を[なし (None)]にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
ロード情報	ゲートウェイに適したカスタムソフトウェアのロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。 デフォルトのロードを使用するには、このフィールドを空白のままにします。
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	このデバイスは、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判断します。 送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定が終端電話機のユーザロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザロケール設定が一致しない場合、デバイスはASCIIを送信します。 受信側のデバイスは、送信側のデバイスのデバイスプールのユーザロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザロケール設定が終端電話機のユーザロケールに一致する場合、電話機に文字が表示されます。 トランクの両端で同じ言語グループに属していないユーザロケールが設定されると、電話機の表示が文字化けする可能性があります。
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] (例: 「0000FF」)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。値は空白または 0 ~ FFFFFFFF の値にしてください。
インターフェイス情報	

フィールド	説明
PRI プロトコル タイプ (PRI Protocol Type)	<p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンの場合、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI AUSTRALIAN] : オーストラリアの ISDN • [PRI EURO] : ヨーロッパの ISDN • [PRI ISO QSIG E1] : ヨーロッパの PBX 間シグナリングプロトコル <p>T1 PRI スパンの場合、キャリアまたはスイッチに応じて複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI 4ESS] : AT&T 長距離通信事業者、Lucent Definity スイッチ • [PRI 5E8 カスタム (PRI 5E8 Custom)] : Cisco Unified IP Phone、Nortel Meridian スイッチ、Lucent Definity スイッチ • [PRI 5E8 Teleos] : Madge Teleos ボックス • [PRI 5E8 インターコム (PRI 5E8 Intecom)] : インターコム PBX • [PRI5E9] : AT&T ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI NI2] : Sprint ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI DMS-100] : Sprint ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI DMS-250] : MCI および Sprint ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI ETSI SC] : T1 でのヨーロッパ地域通信事業者、日本の地域通信事業者 • [PRI ISO QSIG T1] : PBX 間シグナリングプロトコル
プロトコル側 (Protocol Side)	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定は、ゲートウェイがセントラル オフィスまたはネットワーク デバイスに接続するか、あるいはユーザ デバイスに接続するかどうかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両端で逆の設定が使用されていることを確認してください。たとえば、PBX に接続しているときにその PBX がプロトコル側として [ユーザ (User)] を使用する場合、このデバイスには [ネットワーク (Network)] を選択してください。通常、セントラル オフィス (CO) 接続には [ユーザ (User)] を使用します。</p>

フィールド	説明
チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)	<p>最初 (最も小さい番号のポート) から最後 (最も大きい番号のポート)、または最後から最初の順番で、有効化されるチャンネルまたはポートの順番を選択します。</p> <p>有効なエントリには、[TOP_DOWN] (最後から最初) または [BOTTOM_UP] (下から上) があります。使用するポートの順序がわからない場合は、[TOP_DOWN] を選択します。デフォルトは [BOTTOM_UP] です。</p>
チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [番号 (Number)] : B チャンネルの使用では、常にチャンネルマップ形式で提示されます。 • [スロットマップ (Slotmap)] : B チャンネルの使用では、常にスロットマップ形式で提示されます。 • [1B では番号を使用 (Use Number When 1B)] : チャンネルの使用時、B チャンネルが 1 つの場合にはチャンネルマップが提示されますが、複数の B チャンネルが存在する場合はスロットマップが提示されます。これがデフォルト値です。
PUnifiedCMType	<p>デジタルエンコード形式を指定します。次の形式のいずれか 1 つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [a-law] : ヨーロッパおよびその他の地域で使用されています。 • [mu-law] : 北米、香港、台湾、日本で使用されています。
[最初の再起動での遅延 (Delay for First Restart)]	<p>このオプションのフィールドには、スパンがインサービスになる速度を入力します (1/8 秒単位)。システムで多数の PRI スパンが有効になっているときに、[Inhibit Restarts at PRI Initialization] チェックボックスがオフになっている場合、この遅延が発生します。デフォルト値は 32 です。</p> <p>たとえば、最初の 5 枚のカードを 0 に設定し、次の 5 枚のカードを 16 に設定します (インサービスにする前に 2 秒待機します)。</p>

フィールド	説明
[再起動間での遅延 (Delay Between Restarts)]	再起動間の時間を入力します (1/8 秒単位) 。[再起動の抑止 (Inhibit Restarts)] チェックボックスがオフの場合に PRI RESTART が送信されると、この遅延が発生します。デフォルト値は 4 です。
[PRI 初期化での再起動の抑止 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	再起動のメッセージで、PRI スパンのポートのステータスを確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager はポートがインサービスであると見なします。デフォルトでは、ボックスはオンになっています。 D チャンネルが別の PRI トランクの D チャンネルに正常に接続されるとき、このボックスがオフの場合は再起動を送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager 拡張サービスパラメータ ([B チャンネル メンテナンス ステータスの変更 (Change B-Channel Maintenance Status)]) が有効になります。このサービスパラメータによって、B チャンネルがアクティブのときに、個々の B チャンネルをアウトオブサービスにできます。 このチェックボックスをオフにすると、サービスパラメータ [B チャンネル メンテナンス ステータスの変更 (Change B-Channel Maintenance Status)] は無効になります。 このフィールドは、デフォルトでオフになっています。
[不在ポート (Unattended Ports)]	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
コールルーティングに関する情報 - 着信コール (Call Routing Information - Inbound Calls)	

フィールド	説明
[優位な桁数 (Significant Digits)]	<p>このフィールドは、着信コールでPRI スパンを保持する必要のある末尾からの桁数を表します。有意な桁のあるトランクが有効な場合、着信コールに指定されたアドレスの最後の数桁以外をすべて短縮します。</p> <p>有意な桁を収集するかどうかによって、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を短縮しません。 このチェックボックスをオンにした場合、収集する有意な桁の数も選択する必要があります。デフォルトでは、ボックスはオンになっています。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	<p>電話機/ポートのこのグループのコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>
[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[プレフィックスDN (Prefix DN)]	<p>このオプションのフィールドでは、トランクが着信コールで受信する数字に付加するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後に、プレフィックス番号を追加します。</p>
コール ルーティングに関する情報 - 発信コール (Call Routing Information - Inbound Calls)	

フィールド	説明
発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)	<p>Cisco Unified Communications Manager で発信者の電話番号を送信するかブロックするかを選択します。</p> <p>発信側回線 ID の表示を変更したくない場合、[Default] を選択します。Cisco Unified Communications Manager から「許可された発信側回線 ID」を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。「」 Cisco Unified Communications Manager から「制限された発信側回線 ID」を送信する場合は、[制限あり (Restricted)] を選択してください。「」</p>
発呼者の選択 (Calling Party Selection)	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Originator : 発信側デバイスのディレクトリ番号を送信します。この番号はデフォルト値として機能します。• [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。• [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールをリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。

フィールド	説明
[発呼者IE番号タイプが不明 (Calling party IE number type unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリング プランなどのダイヤリング プランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値を変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。このオプションがデフォルト値です。 • 国際 (International) : その国のダイヤリング プラン範囲外にダイヤルする場合に使用します。 • 国内 (National) : その国のダイヤリング プラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリング プランが不明であることを示します。

フィールド	説明
Called Party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリングプランなどのダイヤリングプランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値は変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [Communications Manager] : デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。• 国際 (International) : その国のダイヤリングプラン範囲外にダイヤルする場合に使用します。• 国内 (National) : その国のダイヤリングプラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。• [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリングプランが不明であることを示します。

フィールド	説明
着信番号計画 (Called Numbering Plan)	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリング プランなどのダイヤリング プランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値は変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します。 • ISDN : その国のダイヤリング プラン範囲外にダイヤルする場合に、これを使用します。 • 国内標準 (National Standard) : その国のダイヤリング プラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [プライベート (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリング プランが不明であることを示します。

フィールド	説明
発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリング プランなどのダイヤリング プランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値は変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します。 • ISDN : その国のダイヤリング プラン範囲外にダイヤルする場合に、これを使用します。 • 国内標準 (National Standard) : その国のダイヤリング プラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [プライベート (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリング プランが不明であることを示します。
[削除桁数 (Number of Digits to Strip)]	<p>発信コールで削除する桁数 (0 ~ 32 桁) を選択します。デフォルト値は 0 です。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルするときに、削除する桁数が 3 であるとしします。この例では、Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を削除します。</p>

フィールド	説明
[発信者ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ～ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。 • 5555000 = 固定の発信者 ID。コールを発信した正確な内線番号ではなく社内番号を送信する場合に使用します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。
[SMDI基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。
[PRI プロトコル タイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信の表示 (Display IE Delivery)]	このオプションのフィールドでは、発信側および着信側ネーム デリバリー サービスの SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージで表示情報要素 (IE) の配信を有効にする場合、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>このオプションのフィールドでは、コール転送時に SETUP メッセージにリダイレクト番号 IE を含め、最初のリダイレクト番号とコールがリダイレクトされた理由を示す場合に、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。</p> <p>この設定は、デジタルアクセス ゲートウェイのすべてのプロトコルの SETUP メッセージにのみ適用されます。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>このオプションのフィールドでは、コール転送時に SETUP メッセージにリダイレクト番号 IE を含め、最初のリダイレクト番号とコールがリダイレクトされた理由を示す場合に、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。</p> <p>この設定は、デジタルアクセス ゲートウェイのすべてのプロトコルの SETUP メッセージにのみ適用されます。</p>

フィールド	説明
IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)	<p>[DisplayIE] フィールドに特殊な先頭文字バイト (ASCII 以外、表示不可) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[DisplayIE] フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルにのみ適用されます。</p> <p>デフォルトでは、この設定は無効になっています (オフ)。</p>
[非 ISDN プログレス インジケータ IE を有効に設定 (Setup of Non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>このオプションのフィールドでは、このフィールドに値を指定して、一部の PBX でリングバックを強制することが必要な場合があります。</p> <p>デフォルトでは、オフになっています。ユーザが発信コールでリングバック トーンを受信しない場合のみ、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>この設定を有効にすると、Cisco Unified Communications Manager は、[プログレス インジケータ (Progress Indicator)] フィールドが非 ISDN に設定されたデジタル (つまり、非 H.323) ゲートウェイに Q.931 SETUP メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが非 ISDN であり、接続先デバイスはインバンドのリングバックを再生する必要があることを、接続先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタルゲートウェイ経由で PBX に接続している Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>
MCDN チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)	<p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルのみです。インターフェイス識別子が存在することを示す場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。</p>
ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name in Facility IE)	<p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルのみです。PBX プロバイダーから取得した値を入力します。有効な値の範囲は 0 ~ 255 です。</p>

フィールド	説明
インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)	このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルのみです。インターフェイス識別子が存在することを示す場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。
インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)	このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルのみです。PBX プロバイダーから取得した値を入力します。有効な値の範囲は 0 ~ 255 です。
[接続側回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager で接続先の電話番号を許可するかブロックするかを選択します。 接続側回線 ID の表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified Communications Manager から許可された「接続先回線 ID」を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。「 Cisco Unified Communications Manager から「制限された接続先回線 ID」を送信する場合は、[制限あり (Restricted)] を選択してください。「
[UUIE 設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIEを介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	PRI 4ESS UUIE を介した MLPP 情報の通知を有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチと一緒に機能させるために使用します。 このゲートウェイの [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] の値に [PRI 4ESS] が指定されている場合にのみ、システムはこのチェックボックスを使用可能にします。 デフォルトではオフです。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効な値は、00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンになっているときだけ使用できます。デフォルト値は 2 です。
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	

フィールド	説明
[地理的な場所 (Geo Location)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する、[位置情報を指定しない (Unspecified geo location)] を選択することもできます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>
位置情報フィルタ (Geo Location Filter)	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p><None> 設定をそのままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報設定フィルタ (Geolocation Configuration Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p>
<p>製品固有の設定</p> <p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップウィンドウにヘルプを表示します。詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照してください。</p>	

ポートの構成時の設定

すべてのポートタイプおよびシスコでサポートするゲートウェイの構成時の設定について、以下に詳細なフィールドの説明を記載します。

関連トピック

[POTS ポートの設定項目 \(73 ページ\)](#)

[デジタルアクセス T1 用 E & M ポートのフィールドの説明 \(76 ページ\)](#)

[ゲートウェイの設定項目 \(27 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(78 ページ\)](#)

POTS ポートの設定項目

次の表で POTS ポートの設定項目について説明します。

表 15: POTS ポートの設定項目

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[POTS] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<p>使用可能なすべてのポート、1つのポート、一定範囲のポートのいずれを追加して設定するかを選択するため、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに適切な値を設定します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同一値を設定します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方で [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートディレクション (Port Direction)]	<p>このポートを通過するコールの方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信 (Inbound)] : 着信コールのみに使用します。 • [発信 (Outbound)] : 発信コールに使用します。 • [両方 (Both Ways)] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト) 。
[IPネットワークへの音声信号の調整 (Audio Signal Adjustment into IP Network)]	<p>ポートアプリケーションタイプに関連して、受信した音声信号に適用されるゲインまたは損失を指定します。</p> <p>(注) ゲインを不適切に設定すると、音響エコーが発生します。この設定を調整する際は慎重に行ってください。</p>
[IPネットワークからの音声信号の調整 (Audio Signal Adjustment from IP Network)]	<p>ポートアプリケーションタイプに関連して、送信される音声信号に適用されるゲインまたは損失を指定します。</p> <p>(注) ゲインを不適切に設定すると、音響エコーが発生します。この設定を調整する際は慎重に行ってください。</p>
[プレフィックスDN (Prefix DN)]	<p>このトランクがインバウンドコールで受信する数字に付加するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後に、プレフィックス番号を追加します。</p>

フィールド	説明
[桁数 (Num Digits)]	<p>収集する有意な桁の数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコール先番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>着信コールの処理に使用します。また、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信者番号を、最後の数字からの桁数で指定します。[プレフィックスDN (Prefix DN)]を参照してください。</p>
[必要な桁数 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドが使用されることはほとんどありませんが、必要な桁数がわからない場合は、デフォルト値の 0 のままにします。</p>
[コールリスタートタイマー (1000 ~ 5000 ms) (Call Restart Timer (1000-5000 ms))]	<p>コールリスタートタイマー (1000 ~ 5000 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[オフフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms) (Offhook Validation Timer (100-1000 ms))]	<p>オフフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[オンフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms) (Onhook Validation Timer (100-1000ms))]	<p>オンフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[フックフラッシュタイマー (100 ~ 1500 ms) (Hookflash Timer (100-1500 ms))]	<p>フックフラッシュタイマー (100 ~ 1500 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[SMDIポート番号 (0-4096) (SMDI Port Number (0-4096))]	<p>このフィールドは、ボイスメッセージングシステムに接続するアナログアクセスポートに使用します。</p> <p>SMDIポート番号を、アナログアクセスポートが接続するボイスメッセージングシステム上の実際のポート番号と等しい番号に設定します。</p> <p>(注) 通常、ボイスメッセージングシステムが正常に動作するためには、ボイスメール論理ポートが、ボイスメッセージングシステムの物理ポートに一致する必要があります。</p>
[製品固有の設定 (Product-Specific Configuration)]	

フィールド	説明
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that the gateway manufacturer defines)]	<p>製品固有の設定下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイメーカーが指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)]見出しの右側にある [?]「」情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

デジタル アクセス T1 用 E & M ポートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイの T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際に、次のフィールドの説明を参照してください。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドへの入力はオプションです。

次の表で、E & M ポートの設定項目について説明します。

表 16: E & M ポートの設定項目

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リストボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<p>使用可能なすべてのポート、1つのポート、一定範囲のポートのいずれを追加して設定するかを選択するため、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと[終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドに値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと[終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドに適切な値を設定します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと[終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドに同一値を設定します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと[終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドの両方で[すべてのポート (All Ports)]を選択します。

フィールド	説明
ポートの詳細	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [着信 (Inbound)] : 着信コールのみに使用します。 • [発信 (Outbound)] : 発信コールに使用します。 • [両方 (Both Ways)] : 着信コールと発信コールの両方に使用します。
発呼者の選択 (Calling Party Selection)	ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクトを行うデバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、リダイレクトを行う最初のデバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、リダイレクトを行う最後のデバイスの電話番号を送信します。
[発信者 ID タイプ (Caller ID Type)]	発信者 ID タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ANI] : 非同期ネットワーク インターフェイス (ANI) 発信者 ID タイプを使用する場合はこのタイプを選択します。 • [DNIS] : 着信番号識別サービス (DNIS) 発信者 ID タイプを使用する場合はこのタイプを選択します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	発呼者回線 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。たとえば、北米では次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、社内番号を送信する場合に使用してください。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。

フィールド	説明
[プレフィックスDN (Prefix DN)]	着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、最初に [桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後、プレフィックス番号を追加します。
[桁数 (Num Digits)]	収集する有意な桁の数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコール先番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 [有意な数字 (Sig Digits)] チェックボックスをオンにしている場合に使用します。着信コールの処理に使用します。また、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信者番号を、最後の数字からの桁数で指定します。「Prefix DN」 および 「Sig Digits」 を参照してください。
[必要な桁数 (Expected Digits)]	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。必要な桁数がわからない場合は、フィールドのデフォルト値である 0 のままにします (このフィールドが使用されることはほとんどありません)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that the gateway manufacturer defines)]	製品固有の設定下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイメーカーが指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

ゲートウェイ設定関連のトピック

- [Cisco ゲートウェイの追加 \(1 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(9 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 \(10 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定項目 \(27 ページ\)](#)

- [ポートの構成時の設定 \(73 ページ\)](#)
- [クエリを使用したシスコ ゲートウェイ レコードの削除](#)
- [シスコ ゲートウェイ レポートの生成](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。